

新春記者会見(平成26年1月9日)

【市長あいさつ(要旨)】

- 平成26年を迎えたが、今年も市民の皆様の御協力をいただきながら、さまざまな施策についてしっかりと推進をしていきたい。昨年1年間は小牧山城の築城からちょうど450年の節目の年ということで、織田信長公による小牧山城築城450年のプロジェクトを1年通じて開催した。おかげさまで、新たに小牧山で発見された石垣の歴史的価値、そして小牧山のさまざまな歴史と魅力ということについて、一定の浸透を図ることができた。今年是小牧山城築城450年の記念事業を経て、いかにその成果を継承、発展させていくのかということが大事であると考えている。

- 「夢・チャレンジ 始まりの地 小牧」、これを小牧市のブランドコンセプトとして年末に決定して、発表させていただいたところである。現代においても、時代は違うけれども、非常に混沌とした状況の中で我々も新たなチャレンジが求められているんじゃないのかと、そういう思いの中で、我々小牧市としても、これから、より一層の誇りを持てる、住みよい小牧市に向かって、新たな夢を描いてともにチャレンジしていきたい思いである。

- 今後、地域ブランド戦略を進めるなかで、その大きな柱の1つが小牧山であり、もう1つが子どもである。今回、小牧山の整備とともに「こども夢チャレンジ No.1都市」を進めていきたい。このことを市民の皆様にはわかりやすく御理解いただき、また親しんでいただいて、一緒になって地域ブランドをつくり上げていく、そのためのロゴとキャッチフレーズを策定させていただいたところである。

【説明要旨】

<地域ブランドにおけるロゴマーク・キャッチフレーズの決定について>

- キャッチフレーズが「キミと一緒に、育っていききたい。」である。ロゴは円形であり、子どもを中心とし、おじいさん、おばあさんであるとか、お父さん、お母さんであるとか、あるいは地域の皆さんであるとか、そういった方々に囲まれている、そしてその中に小牧山城であるとか、あるいは名古屋コーチンであるとか、さらには小牧のロケット生産であるとか飛行機であるとか、桃であるとかいろんな地域資源をちりばめている。

- まさに小牧山を中心に、夢チャレンジの象徴である子どもたちを中心にしながら、子どもたちが夢を描いて、そして子どもたちが挑戦していける、そういった環境づくりをまちを挙げて行い、市民全体で子どもたちの夢を応援していく、そういったことを通じて全ての世代がつながっていくことが、全ての市民が暮らしやすいまちづくりにつながっていく。
- ロゴは、子ども会連絡協議会を通じて市内の子どもたちに広くこのデザインの複数案を示し、投票していただき決定した。今後、このロゴマークとキャッチフレーズを広く活用して、ブランド推進の旗印としていきたい。

<今後の史跡小牧山の整備について>

- 歴史的価値にふさわしい整備を進めていきたいと考えており、1つは山頂の石垣の整備、もう1つが旧市役所本庁舎を取り壊した跡地の史跡公園整備、そしてもう1つが史跡資料館、史跡センターを建設したい。この3つを今後4、5年で集中的に整備を図っていきたい。
- 具体的に、先の3点、それからプラスワンということで、もう1つは山全体の樹木や景観等の整備をしていきたい。春は桜、秋は紅葉というような四季折々楽しめるような史跡公園にふさわしい整備を図っていきたいという思いがある。この3点とプラス1点ということで、小牧山の整備をここ数年で進めていきたい。

<こども夢チャレンジ No. 1都市について>

- 子育てがしやすいまちだという小牧の、これまで築いてきた特色の上に、子どもの子育て環境の整備にとどまることのない、子どもの夢を育み、子どもの夢へのチャレンジを支援していく、そういった施策を展開していきたいと考えている。次年度より推進体制として、子どもに関する施策を一元的に展開するこども未来部を創設する。また、今後5年間の本市のまちづくりの指針として、新たな基本計画がこの4月からスタートする。今パブリックコメントを実施しているところであるが、これも近日中に最終決定をして、予算とともにお示しをしたい。今後5年間、人や財源を重点的かつ優先的に導入する事業として、この夢チャレンジNo.1都市に向けての子ども施策を位置づけている。特に3点あげると、1点目が地域子ども子育て条例の制定である。地域で子どもの夢を育み、夢へのチャレンジを応援するまちを目指す

理念を掲げるとともに、子どもを育て、育つ権利を明確化した条例を制定して、子どもをまちづくりの中心として全ての世代がつながるということを明確にしようとするものである。

- 2つ目が、夢・チャレンジ応援制度の創設である。「こども夢チャレンジ No.1都市」に向けた経済的な基盤として、市民、団体、企業からの寄附や行政からの積立金を財源に、子どもたちの夢を育む取り組みや夢へのチャレンジを応援する制度を創設したい。

- 3つ目が、夢を育む環境の創出で、これも「こども夢チャレンジ No.1都市」に向けて、地域のネットワーク基盤の基盤形成のスタートとして、企業と連携をした子ども向けの市内産業の見学会のコースの策定であるとか、あるいは市民のノウハウを活用した体験講座の開催であるとか、あるいは子どもの視野を広げていく国際交流プログラムの拡充することで、子どもの夢を育み、また夢へのチャレンジ精神を育む、そんな環境を創出したい。